

四半期報告書

(第25期第3四半期)

自 平成25年1月1日

至 平成25年3月31日

株式会社ランシステム

埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期財務諸表	8
(1) 四半期貸借対照表	8
(2) 四半期損益計算書	10
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	13
[四半期レビュー報告書]	14

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年5月14日
【四半期会計期間】	第25期第3四半期（自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日）
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 濱田 文孝 埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38
【本店の所在の場所】	（同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」 で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区池袋2丁目43番1号（東京本社）
【電話番号】	03（6907）8111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 面高 英雄
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第3四半期 累計期間	第25期 第3四半期 累計期間	第24期
会計期間	自平成23年7月1日 至平成24年3月31日	自平成24年7月1日 至平成25年3月31日	自平成23年7月1日 至平成24年6月30日
売上高 (千円)	5,482,798	5,781,892	7,406,735
経常利益 (千円)	305,574	277,721	409,604
四半期(当期)純利益 (千円)	145,052	91,928	161,804
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	753,814	803,314	753,814
発行済株式総数 (株)	19,059	20,709	19,059
純資産額 (千円)	1,509,387	1,690,152	1,498,245
総資産額 (千円)	5,442,334	5,063,228	5,049,241
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	7,733.66	4,885.64	8,626.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	27.7	33.4	29.7

回次	第24期 第3四半期 会計期間	第25期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成24年1月1日 至平成24年3月31日	自平成25年1月1日 至平成25年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4,528.70	2,316.62

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含んでいません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、経済政策への期待感、金融緩和策による株価上昇等により、輸出企業を中心に改善が見られた一方で、世界経済の減速を受けて依然として不透明な景況が続いております。

このような経営環境のもと、当社は、「お客様満足度向上の追及」「自社開発システムの販売による新たな収益創出」「自遊空間既存店の設備投資」「従業員教育」に注力し、経営効率の向上に努めました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高5,781百万円（前年同四半期比5.5%増）、営業利益250百万円（同0.7%減）、経常利益277百万円（同9.1%減）となりました。また、土地の売却による固定資産売却損45百万円を計上したことにより、四半期純利益は91百万円（同36.6%減）となりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

<店舗運営事業>

当事業につきましては、スペースクリエイティブ自遊空間の認知及び自遊空間ブランドの更なる向上に努めるとともに、好調に稼働しているダーツ、カラオケ等アミューズメントコンテンツの強化や店内環境の整備改善、自遊空間会員向けWEBサービス及び携帯電話・スマートフォン向けサービスの拡充、店舗でのダーツ・ビリヤードのプロブレイヤーを招致したイベントなどを実施いたしました。

当第3四半期会計期間末時点では181店舗（直営店舗62、FC加盟店舗119）となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は5,111百万円（前年同四半期比5.1%増）、セグメント利益は389百万円（同1.4%減）となりました。

<不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は354百万円（同1.0%減）、セグメント利益は82百万円（同5.3%減）となりました。

<その他事業>

その他事業として購買業務、システム外販業務及びメディア広告業務を運営しております。システム外販業務では、主に自社開発の入会システム、会員管理システム等を、主に時間課金制を採る店舗向けに販売しており、新たな収益創出に向けた展開を実施しております。メディア広告業務では、主に自遊空間店内ポータルサイトにおける広告営業や自遊空間会員が店舗外でもコミュニケーション可能なWEBサービスを提供しております。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は315百万円（同20.6%増）、セグメント利益は60百万円（同12.5%増）となりました。

(2)財政状態の分析

（資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は、1,921百万円となり、前事業年度末に比べ106百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が153百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は3,141百万円となり、前事業年度末に比べ92百万円減少いたしました。これは主に、土地が139百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、総資産は、5,063百万円となり、前事業年度末に比べ13百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は、1,417百万円となり、前事業年度末に比べ355百万円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が210百万円、1年内償還予定の社債が133百万円、1年内返済予定の長期借入金

が55百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は1,955百万円となり、前事業年度末に比べ177百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金が204百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、3,373百万円となり、前事業年度末に比べ177百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、1,690百万円となり、前事業年度末に比べ191百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が91百万円増加し、第三者割当による新株発行によって資本金及び資本剰余金がそれぞれ49百万円増加したことなどによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、33.4%（前事業年度末は29.7%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	63,600
計	63,600

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年5月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,709	20,709	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制度は採用していません。
計	20,709	20,709	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年3月22日 (注)	1,650	20,709	49,500	803,314	49,500	841,559

(注) 有償第三者割当

発行価格 60,000円

資本組入額 30,000円

割当先 GAUDI株式会社、プラザ商事株式会社

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 303	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 20,406	20,406	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	20,709	—	—
総株主の議決権	—	20,406	—

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ランシステム	埼玉県狭山市狭山台 4丁目27番地の38	303	—	303	1.46
計	—	303	—	303	1.46

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成24年7月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,044,653	1,197,766
売掛金	261,078	211,330
商品及び製品	187,019	127,592
仕掛品	6,404	1,601
原材料及び貯蔵品	30,506	50,988
その他	296,666	345,344
貸倒引当金	△12,046	△13,361
流動資産合計	1,814,282	1,921,262
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	921,876	987,059
車両運搬具（純額）	0	—
工具、器具及び備品（純額）	193,650	235,679
土地	935,178	795,678
有形固定資産合計	2,050,705	2,018,418
無形固定資産		
のれん	19,649	12,436
その他	81,747	87,633
無形固定資産合計	101,396	100,070
投資その他の資産		
敷金	868,381	843,961
その他	246,947	230,829
貸倒引当金	△32,471	△51,314
投資その他の資産合計	1,082,857	1,023,476
固定資産合計	3,234,959	3,141,965
資産合計	5,049,241	5,063,228

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	177,644	178,649
短期借入金	250,000	250,000
1年内償還予定の社債	153,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	601,247	546,113
未払法人税等	226,472	15,803
引当金	31,347	18,000
資産除去債務	9,650	—
その他	323,842	389,315
流動負債合計	1,773,205	1,417,881
固定負債		
社債	50,000	30,000
長期借入金	1,297,518	1,502,139
資産除去債務	159,873	167,821
その他	270,398	255,233
固定負債合計	1,777,790	1,955,194
負債合計	3,550,996	3,373,075
純資産の部		
株主資本		
資本金	753,814	803,314
資本剰余金	792,059	841,559
利益剰余金	△23,963	67,964
自己株式	△23,969	△23,969
株主資本合計	1,497,940	1,688,869
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	304	1,283
評価・換算差額等合計	304	1,283
純資産合計	1,498,245	1,690,152
負債純資産合計	5,049,241	5,063,228

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
売上高	5,482,798	5,781,892
売上原価	4,481,095	4,780,465
売上総利益	1,001,703	1,001,426
販売費及び一般管理費	749,637	751,249
営業利益	252,066	250,177
営業外収益		
受取利息	3,004	3,384
販売手数料収入	79,251	59,902
その他	4,911	3,721
営業外収益合計	87,167	67,008
営業外費用		
支払利息	31,732	24,219
株式交付費	—	1,935
支払手数料	—	11,354
その他	1,926	1,955
営業外費用合計	33,659	39,464
経常利益	305,574	277,721
特別利益		
固定資産売却益	137	4,683
貸借契約解約益	—	13,017
特別利益合計	137	17,700
特別損失		
固定資産売却損	—	45,361
固定資産除却損	1,203	3,014
店舗閉鎖損失	—	7,270
事業整理損	—	19,171
減損損失	11,790	18,442
特別損失合計	12,993	93,261
税引前四半期純利益	292,718	202,160
法人税等	147,665	110,232
四半期純利益	145,052	91,928

【継続企業の前提に関する注記】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	224,978 千円	244,287 千円
のれんの償却額	6,549 千円	6,694 千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間（自平成23年7月1日 至平成24年3月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間（自平成24年7月1日 至平成25年3月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成25年3月22日付で、GAUDI株式会社及びプラザ商事株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期会計期間において資本金が49,500千円、資本準備金が49,500千円増加し、当第3四半期会計期間末において、資本金が803,314千円、資本剰余金が841,559千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自平成23年7月1日 至平成24年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上 額(注2)
	店舗運営 事業	不動産 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,862,597	358,455	261,745	5,482,798	—	5,482,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,862,597	358,455	261,745	5,482,798	—	5,482,798
セグメント利益	395,057	87,215	53,958	536,231	△284,165	252,066

(注) 1. セグメント利益の調整額△284,165千円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「店舗運営事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上し収益性が低下している店舗については減損損失を認識しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては、11,790千円であります。

II 当第3四半期累計期間（自平成24年7月1日 至平成25年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上 額(注2)
	店舗運営 事業	不動産 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,111,244	354,876	315,771	5,781,892	—	5,781,892
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,111,244	354,876	315,771	5,781,892	—	5,781,892
セグメント利益	389,511	82,585	60,695	532,792	△282,615	250,177

(注) 1. セグメント利益の調整額△282,615千円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「店舗運営事業」セグメントにおいて、継続的に営業損失を計上し収益性が低下している店舗については減損損失を認識しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては、18,442千円であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	7,733円66銭	4,885円64銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	145,052	91,928
普通株式に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	145,052	91,928
普通株式の期中平均株式数 (株)	18,756	18,816

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 5月10日

株式会社ランシステム

取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田中 大丸 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若尾 典邦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ランシステムの平成24年7月1日から平成25年6月30日までの第25期事業年度の第3四半期会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成24年7月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ランシステムの平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年5月14日
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 濱田 文孝
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役濱田文孝は、当社の第25期第3四半期（自平成25年1月1日 至平成25年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。